

越後山遺跡出土ヒスイ大珠の文化財指定について（答申） 案

越後山遺跡出土ヒスイ大珠について、次のとおり市指定文化財の指定することが望ましいものであることを、和光市文化財保護委員会として以下のとおり答申する。

1 指定することが望ましい文化財の概要

- ・名 称：越後山遺跡出土ヒスイ大珠
- ・種 別：有形文化財（考古資料）
- ・員 数：1
- ・所有者：和光市
- ・時 代：縄文時代中期
- ・出土遺跡・遺構：越後山遺跡第2次調査区 第11号土坑
- ・遺物の種類：大珠（翡翠輝石製）
- ・規格 長径：4.9cm 短径：2.58cm 厚さ：1.59 cm 重量：44.12 g

2 理由

越後山遺跡出土ヒスイ大珠は、発掘調査による出土であることから原位置や帰属時期が明らかであることに加え、ヒスイ製の優品であると考えられる。また、副葬品と考えられることから、当該地域の縄文時代中期の実態を解明するための重要な資料であると捉えられる。

以上のことから、当該資料を和光市指定文化財に指定し、適切な保存・活用を図り、後世に長く伝える必要がある。

越後山遺跡出土ヒスイ大珠の文化財的価値について

1. はじめに

今回、和光市文化財保護委員会に諮問された資料は、越後山遺跡第2次調査第11号土坑から出土したヒスイ製の大珠である。現時点において、市内で出土したヒスイ製品としては市内最大の資料であり、風化による劣化が少なく輝きがある優品と捉えられている。なお、発掘調査によって出土した資料であることから原位置が明らかな資料である。第11号土坑は縄文時代中期の墓壙と考えられ、ヒスイ大珠はその副葬品と考えられている。これらを踏まえ、越後山遺跡出土ヒスイ大珠が文化財に指定して保護する考古資料に当たるかを調査・検証した。

2. 越後山遺跡出土ヒスイ大珠について

【帰属時期】

越後山遺跡出土ヒスイ大珠は、縄文時代中期に位置付けられる土坑の覆土中から出土しており、帰属時期は縄文時代中期と捉えて相違ない。

【資料の状態】

越後山遺跡出土ヒスイ大珠は完形品で検出されている。全体に丁寧な研磨が施されて光沢があり、鮮やかな透明度のある緑色の資料であり、県内でも有数の優品であると考えられる。

【石材】

石材については肉眼観察の見解に加え、平行ビーム法によるX線回折調査によって翡翠輝石の特徴が明らかであることから、石製品の材料として用いられた岩石は翡翠であると判断することができる。

3. 文化財的価値

越後山遺跡出土ヒスイ大珠は、発掘調査による出土であることから原位置や帰属時期が明らかであることに加え、ヒスイ製の優品であると考えられる。また、副葬品と考えられることから、当該地域の縄文時代中期の実態を解明するための重要な資料であると捉えられる。

以上のことから、当該資料を和光市指定文化財に指定し、適切な保存・活用を図り、後世に長く伝える必要がある。